

# 新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。  
この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。  
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。  
謹白

## 記

■ 実施日 2022年4月25日(月) ご依頼分より

## ■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
OF93 6	抗P/Q型 電位依存性 カルシウムチャンネル抗体 (抗P/Q型VGCC抗体) 5G387-0000-023-007	血清 0.3	S09 ↓ A00 (X)	冷蔵 (28日)	2~8	1000 ※6	RIA	30.0未満 (pmol/L)	

※6：免疫学的検査判断料



● 抗P/Q型 電位依存性 カルシウムチャンネル抗体（抗P/Q型VGCC抗体）  
ランバート・イートン筋無力症候群（LEMS）の診断補助に有用な検査です。

ランバート・イートン筋無力症候群（Lambert-Eaton Myasthenic Syndrome：LEMS）は、四肢筋力低下や自律神経障害などを呈する神経筋接合部の免疫性神経疾患で、約60%に肺小細胞癌（small cell lung carcinoma：SCLC）を合併する傍腫瘍神経症候群でもあります。

抗P/Q型 電位依存性 カルシウムチャンネル抗体（抗P/Q型VGCC抗体）は、LEMS患者の85～95%で陽性となることが知られ、LEMS診断基準（※）の血液・生化学的検査所見として、筋電図と同時にしくは筋電図の後に実施することが推奨されています。

本検査は、LEMSのステロイド等の免疫治療をする自己抗体介在性の自己免疫機序を確認するための重要な検査で、かつ類似の神経疾患である重症筋無力症（MG）などとの鑑別診断能が良好な検査であり、ランバート・イートン筋無力症候群（LEMS）の診断補助に有用な検査です。

※「ランバート・イートン筋無力症候群の診断基準」

（難治性疾患政策研究事業「神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証研究班」）

▼疾患との関連

ランバート・イートン筋無力症候群（LEMS）

▼関連する主な検査項目

抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）  
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）

▼検査要項

検査項目名	抗P/Q型 電位依存性 カルシウムチャンネル抗体（抗P/Q型VGCC抗体）
項目コード	OF93 6
検体量	血清 0.3 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2～8 日
検査方法	RIA
基準値	30.0未満 (pmol/L)
報告範囲 (単位)	15.7未満、15.7～249、250以上 (pmol/L)
桁数	有効3桁、整数3桁、小数1桁
検査実施料	1000点 （「D014」自己抗体検査「45」）*1
判断料	144点（免疫学的検査判断料）
備考	

\*1 検査実施料に関わる留意事項

本検査は、臨床症状によりランバート・イートン筋無力症候群が疑われる患者であって、反復刺激誘発筋電図検査において異常所見を認める患者を対象として実施した場合に限り算定できる。ただし、医学的な必要性から反復刺激誘発筋電図検査において異常所見を認めない患者を対象として実施する場合には、診療報酬明細書の摘要欄にその詳細な理由を記載すること。

●参考文献

本村 政勝, 他：医学と薬学 77 (7)：1057～1063, 2020. (検査方法参考文献)

本村 政勝：日内会誌 97：1778～1783, 2008. (臨床的意義参考文献)